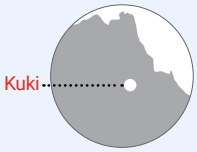
Google for Education

Chromebook と Google Workspace の活用で子どもたちの未来につながる "ワクワクする学び" を推進

埼玉県・久喜市立清久小学校は、コロナ禍が始まった当初から Google for Education を導入。児童・教員 1 人 1 台の Chromebook と Google Workspace for Education（以下、Google Workspace）を活用し、協働的な学びの実現に向けて取り組みを続けています。その先に同校が目指すのは、子どもたちが "ワクワクする学び" 。ICT 活用のその歩みとここまでの成果を、情報主任の教員の言葉を中心に紹介します。



久喜市立清久小学校

埼玉県久喜市六万部 590
https://www.kuki-city.ed.jp/kiyoku-e

1873 年に開校し、創立 150 周年を迎える。2023 年度の学校教育目標は「きよく たのしく たくましく」で、「伸びしろいっぱい 清久小学校」をキャッチコピーとし、「児童 1 人 1 人のよさや可能性を伸ばす教育の推進」に取り組んでいる。子どもたちがワクワクする学び、達成感のある学びを目指し、ICT を積極活用しながら、地域と深く結びついた体験学習を充実させている点も特徴。児童数は 120 人。

Chromebook 135台

01

市内他校に先駆け Google for Education を先行導入

清久小学校は、農地が多く自然環境に恵まれた地域にあります。各学年 20 人前後、全校児童 120 人という小規模な学校で、教員も各学年 1 人ずつとアットホームな雰囲気が特徴です。子どもたちは学年を超えて仲が良いだけでなく地域との交流も身近で、敷地内で栽培する茶葉を地元の人たちと一緒に摘み、お茶を作ったり、茶道の先生を招いて茶道体験をしたりと、地域交流も盛んに行われています。

同校では "ワクワクする学び" を大切に考えています。6 年生の担任で、情報主任も務める井上優志氏は、地域交流も含め「さまざまな体験活動を通して、子どもたちがワクワクするような学習ができることを目指しています」と話します。その取組みの成果として、毎月実施している「学校が楽しいか」というアンケートに対し、100 %の児童が毎回「楽しい」と答えています。

井上氏は清久小学校に来て 4 年目。つまり、新型コロナウイルスの感染が拡大し始めた 2020 年 4 月に赴任したことになります。ちょうどそのタイミングで、同校は久喜市の実証校として市内他校に先駆け、Chromebook の全児童・教員 1 人 1 台配布が実現しました。併せて Google Workspace の活用もスタートしました。Google Workspace の活用は、新型コロナウイルスの感染拡大がきっかけとなったわけではなく、前年度すでに決定していました。いずれにせよ、新型コロナウイルスの感染拡大で、子どもたちの登校や 1 つの場所に集まることがままならない中でも、先行導入された Chromebook と Google Workspace のおかげでオンライン集会をいち早く試行することができました。

導入当初について「何をどう活用すればいいかわからない面

久喜市立清久小学校

教諭・情報主任
井上 優志 氏

がありました」と井上氏は振り返ります。

「私自身、Chromebook も Google Workspace もそれまで使ったことがなく、初めは使い慣れた他社端末やソフトとの違いに難しさを感じました。例えば、他社のワープロソフト上で中央揃えを行うような操作が、Google ドキュメントでどこを押せばいいのかわからないといった、UI の部分で戸惑いがあったのも事実です。他の教員も同様でした」

ただ、操作に関しては、使っているうちに解決していきました。それからはとにかく "やってみる" を教員の間での合言葉とし、積極的に利用していきました。単なる操作を超えた活用方法について教員間で日常的に情報交換し、教え合いながら進んだことで、活用範囲がさらに広がりました。

一方、児童については、1 人 1 人へのアカウント配布や各家庭のインターネット環境の確認等には苦労したものの、基本的な操作に関しては新型コロナウイルスの感染拡大による在宅要請により、じっくり教える時間を設けることができたため、さほどの苦労はなかったようです。ただし共同編集は、中学年・低学年で他の児童が入力した内容を間違えて上書きしたり消してしまったりしたこともあり、浸透までにはやや苦労もありました。

02

共同編集を活用した結果、児童の主体性の高まりを実感

導入から 4 年目に入った清久小学校では、Chromebook と Google Workspace を各授業や委員会・クラブ活動で活用するほか、オンライン集会、教員同士のチャット、さらに学校日誌や週予定表等でも利用しています。家庭学習で Chromebook を使った調べ学習の宿題を出すこともあります。

授業における活用については、例えば図工の授業で、絵などの作品を Chromebook で写真に撮って Google スライドに載せ、題名や制作にあたって力を入れた点を記入し、それを子どもたちみんなで鑑賞するという使い方をしています。子どもたちがクラスメートの作品を手軽に鑑賞できるのはもちろん、教員側としては成績をつける際にも便利だと井上氏は評価します。

また、国語では Google ドキュメントを使って作成した文章を Google Classroom で提出してもらい、教員側が一括して確認できるようにしています。「図工や国語に限らず、他の教科でも使えるところは Google Workspace を積極的に使っています。特に、共同編集は便利に活用していますね」と井上氏。中でも Google Jamboard はさまざまな教科において、子どもたちが話し合いを行う場面でグループごとに 1 枚ずつのボードを用意し、意見を貼り付けたり、その意見を囲んで子どもたちだけで意見をまとめたりしています。

「面と向かって話すのが苦手な子でも、ボードに意見を書くことはできるので、全員参加で話し合いの深まりを強く感じてい

ます」（井上氏）

教員も子どもたちも同じタイミングで Chromebook と Google Workspace を使い始めたことから、教員が使い方を教えるだけでなく、子どもから知らなかった機能を教えられる場面もありました。教員と児童の間で教えたり教えられたり、という感じで進んできました」と井上氏。児童主体でいろいろな使い方を発見し、工夫しながら使うようになった例として、休み時間の係活動で、子どもたちが自ら好きな音楽のアンケートを作成し実施するといったことがありました。

Google Classroom で各学級 1 つずつのルームを作っていますが、教員によってはクラブや委員会でもルームを作成し、例えば工作クラブでは作ったものをカードにして送る等、さまざまな活用が進んでいます。また、そうした取組みを職員室で他の教員に発信する先生もいます。井上氏はその中心にいる教員の 1 人です。Google Jamboard で地図や思考ツール等の画像を背景に設定し、地名や名前を書いたカードをボード上に貼り付けたり動かしたりする使い方は、井上氏発信で多くの先生が採用している方法です。

前述の休み時間の活動でも見られるように、教員から指示することなく、係活動で Chromebook と Google Workspace を使いたいと提案してくるほか、授業においても子どもたちの発表が増えたり、以前は発表しなかった子が Chromebook 上で自分の意見をしっかり書いてくれたりと、児童の主体性が高まったと井上氏は語ります。

「Google スライドや Google ドキュメント、Google Jamboard を活用して自分の考えを表現させることにより、普段は発表できない児童も自分の考えを表現でき、授業に参加している実感を得られていると感じます。子どもの主体性や自ら考える力、新しいものに挑戦する力、壁に当たっても粘り強く取り組む姿勢など、点数化できない部分での効果を感じているところです」（井上氏）

03

デジタルとアナログの "いいとこ取り" でさらなる可能性を追求

一方、教員側の活用の点では、市教育委員会が Google Apps Script（GAS）を活用し、Google スプレッドシートに入力するだけで学校日誌を作成できるようにしたことで、校務の効率化が進みました。また、Google Classroom や Google チャットを用いて教員間の資料の受け渡しや日常的な連絡を手軽に行えるようにしたことでコミュニケーションが深まっているほか、学校評価アンケート等も Google フォームの活用で効率化が進んでいます。これにより、業務によっては時間が大きく削減されたのに加えて、職員会議の資料印刷がなくなったことから会議運営の効率化やペーパーレス化も目に見えて進展しました。

「会議中に Chromebook 上で確認しながら、必要があれば共同編集できますし、紙プリントのようにファイリングの手間や保管の不便さもないので、とてもスマート化されたと思います。もちろん子どもたちに配布するプリントも減っているので、紙の使用量は体感では 5 分の 1 程度になった印象ですね。ただ、全てをペーパーレス化しようとすると、すでに存在する紙の資料をスキャンする手間が発生します。その場合は、紙のまま印刷したほうが早いのではとの声もあります」（井上氏）

すべてをデジタルに置き換えるのではなく、紙の良さを活かせる部分は紙で享受するというハイブリッドの考え方も大切だと井上氏は語ります。教員の業務だけでなく授業においても、例えば文章を書く力や漢字を身につけるといった場合は紙に書くほうが

効果的なケースもあるため、デジタルとアナログを融合させて "いいとこ取り" するハイブリッド学習を目指していると話してくれました。

子どもたちについては Chromebook や Google Workspace も道具の 1 つとして適切に選択できるようにし、同校が目標とする "ワクワクする学び" の実現に向かっていきたいと、力強く語ります。「1 人の教員としての個人的な考えですが、いま、将来の夢を尋ねると『特にない』と答える子が多い中、デジタルをうまく取り入れることで、誰もが絶望することなく、希望にあふれる明るい未来を目指したいです」と、これからに向けた思いを教えてくれました。

取材日: 2023 年 7 月 20 日

Google for Education

いつでも、どこでも、予算に応じて使える
教育テクノロジーソリューションです。

Google for Education の特徴
- 簡単操作
- 手ごろな価格
- 高い汎用性
- 高い効果

1 chromebook
教育向けに設計され、授業向けに開発された
軽量で耐久性の高い共有可能なノートパソコン

2 Google Classroom
教師と児童生徒向けに構築された
学習プラットフォーム

3 Google Workspace for Education
時間や場所を問わず学校全体で共同利用できる
クラウド型教育プラット フォーム

4 Chrome Education Upgrade
1 つの端末から同じドメインのすべての
Chromebook を設定
シンプルなクラウド型管理コンソール

お問い合わせ事務局 0120-905-860（平日 9:00-18:00） gfe-jp-isr@google.com

Google for Education の詳細については、右記 URL、もしくは QR コードからアクセスしていただくか、同ページ「お問い合わせ」よりお問い合わせください。 © Copyright 2023 Google
Google for Education、Chromebook、Google Workspace、Google ドキュメント、Google スライド、Google Jamboard、Google スプレッドシートは、Google LLC の商標です。その他すべての社名および製品名は、それぞれ該当する企業の商標である可能性があります。

お問い合わせはこちらから
https://g.co/edu